

数値目標の計測方法の設定にあたって記載すべき事項は以下のとおりである。

1) 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況		
指標 1 :		
A : 事前評価時の『従前値』の求め方		
①従前値の基準時点		
②実施主体		
③求め方		
B : 事後評価時のデータの計測方法と『評価値』の求め方		
④計測時期		
⑤実施主体		
⑥データの計測手法		
⑦評価値の求め方		
⑧確定/見込みの別	確定	見込み
C : フォローアップ時の『確定値』の求め方		
⑨フォローアップの必要性	あり	なし
⑩計測時期		
⑪実施主体		
⑫求め方		

※都市再生整備計画の様式(参考例)より一部を抜粋

目標

大目標 : 歴史的たたずまいを継承する次世代型まちづくり

- 目標1: 交流人口拡大による地域復興-「観光地づくり」
- 目標2: 定住人口拡大による街なか再生-「徒歩圏で生活が完結」
- 目標3: 歴史的資源の保全活用による地元意識の復権-「誇りが持てる都市景観の形成」

目標設定の根拠

まちづくりの経緯及び現況

目標を定量化する指標

指標	単位	定義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	基準年度	目標
a 観光入込客数	人/年	□□地区の観光入込客数	交流人口拡大度合いを計測する指標	55,000	H16	66.C
b 居住人口	人	□□地区内人口	定住人口拡大度合いを計測する指標	800	H16	1.0
c ■■館来館者数	人/年	■■館への来館者数	交流人口拡大度合いを計測する指標 地元意識の高まりを確認する指標	315	H16	50
d 地域コミュニティ形成	団体数	まちづくり団体、地域活動団体数	地域コミュニティ形成度を確認する指標	1	H16	5

↑
転記する指標名

都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況(評価値の求め方)の確認方法には下記の5パターン(①~⑤)が存在する。次ページ以降に、各パターンの記入例を、各指標例を用いて示す(P.7参照)。

パターン	評価値の求め方	指標例
①	計測したデータをそのまま評価値(確定した値)とする場合	新規イベントの参加者数
②	計測したデータをそのまま評価値(見込みの値)とする場合	緑被率
③	計測したデータ+過去の傾向から評価値を推計する場合	人口
④	前年度のデータ+過去の傾向から評価値を推計する場合	観光入込客数
⑤	類似事例・簡易調査などから評価値を類推する場合	新規施設の入場者数、 駅前広場の住民満足度

【記入例】 1) 成果の評価方法 / 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況

※記入例は、交付期間を平成18年度～平成22年度の5年間と仮定している。

パターン① 計測したデータをそのまま評価値（確定した値）とする場合

指標例1		新規イベントの参加者数	
A：事前評価時の『従前値』の求め方			
①従前値の基準時点	都市再生整備計画作成時（平成17年10月1日時点）		
②実施主体	都市整備課（まちづくり交付金主管課）		
③求め方	<ul style="list-style-type: none"> 交付終了年度である平成22年度に新たに行うことを予定しているまちづくりイベントのため、事前評価時の『従前値』は0と設定した 		
B：事後評価時のデータの計測方法と『評価値』の求め方			
④計測時期	平成22年6月1日～3日		
⑤実施主体	商工観光課		
⑥データの計測手法	<ul style="list-style-type: none"> 6月1日～3日にかけて新規に実施するまちづくりイベントの参加者数を、イベント会場入り口2カ所において、調査員計4人がカウンタで計測して把握する 		
⑦評価値の求め方	<ul style="list-style-type: none"> 計測時点では関連事業が完了しており、計測した値が評価基準日【平成23年3月31日】においても変動する可能性がまったくないため、計測した値をもって、そのまま確定した評価値とする 		
⑧確定／見込みの別	●	確定	
		見込み	
C：フォローアップ時の『確定値』の求め方			
⑨フォローアップの必要性		あり	
	●	なし	
⑩計測時期	－		
⑪実施主体	－		
⑫求め方	－		

パターン② 計測したデータをそのまま評価値（見込みの値）とする場合

指標例 2		緑被率	
A：事前評価時の『従前値』の求め方			
①従前値の基準時点	航空写真撮影時（平成 17 年 5 月 1 日時点）		
②実施主体	公園緑地課（公園緑地担当課）		
③求め方	<ul style="list-style-type: none"> 平成 17 年 5 月 1 日に撮影した航空写真から 50m²以上の緑被地を計測し、緑被地面積を対象地区面積で除して緑被率を求めた 		
B：事後評価時のデータの計測方法と『評価値』の求め方			
④計測時期	平成 22 年 5 月 1 日時点		
⑤実施主体	公園緑地課（公園緑地担当課）		
⑥データの計測手法	<ul style="list-style-type: none"> 事前評価時の『従前値』の計測方法と同一とした 平成 22 年 5 月 1 日に航空写真を撮影し、データを計測した 		
⑦評価値の求め方	<ul style="list-style-type: none"> 計測時点では関連事業が完了しておらず、効果が十分に発現しているとはいえない また、本方法書作成前に計測した値が、評価基準日【平成 23 年 3 月 31 日】において変動する可能性がある さらには、実測データのため、評価値を推計することが困難である。 よって、計測したデータをそのまま評価基準日【平成 23 年 3 月 31 日】の評価値（見込みの値）とする 		
⑧確定／見込みの別		確定	
	●	見込み	
C：フォローアップ時の『確定値』の求め方			
⑨フォローアップの必要性	●	あり	
		なし	
⑩計測時期	交付終了後 1 ヶ月を経過した時点（平成 23 年 5 月 1 日時点）		
⑪実施主体	公園緑地課（公園緑地担当課）		
⑫求め方	<ul style="list-style-type: none"> 平成 23 年 5 月 1 日に撮影する航空写真を基に、事前・事後評価時と同じ方法でデータを計測し、確定値とする。 		

パターン③ 計測したデータ+過去の傾向から評価値を推計する場合

指標例3		居住人口	
A：事前評価時の『従前値』の求め方			
①従前値の基準時点	住民基本台帳人口移動報告月別結果（9月）調査時（平成17年9月時点）		
②実施主体	住民課（人口統計担当課）		
③求め方	<ul style="list-style-type: none"> 平成17年10月28日に公表された、住民基本台帳人口移動報告の9月の月別結果から町丁目別データを抽出し、当該地区の居住人口として整理した 		
B：事後評価時のデータの計測方法と『評価値』の求め方			
④計測時期	平成22年6月30日時点		
⑤実施主体	住民課（人口統計担当課）		
⑥データの計測手法	<ul style="list-style-type: none"> 平成22年6月末に公表予定である住民基本台帳人口移動報告の平成22年5月の月別結果から町丁目別データを抽出し、当該地区の居住人口として整理する 		
⑦評価値の求め方	<ul style="list-style-type: none"> 計測時点ではすべての事業が完了しないため、効果が十分に発現しているとはいえない状況が予想される よって、5月の住民基本台帳人口移動報告のデータと過去の傾向（H18～21年度のデータ）から、評価基準日【平成23年3月31日】の人口を推計し、評価値（見込みの値）とする 		
⑧確定／見込みの別		確定	
	●	見込み	
C：フォローアップ時の『確定値』の求め方			
⑨フォローアップの必要性	●	あり	
		なし	
⑩計測時期	交付終了後2ヶ月を経過した時点（平成23年5月30日時点）		
⑪実施主体	住民課（人口統計担当課）		
⑫求め方	<ul style="list-style-type: none"> 平成22年5月末に公表予定である住民基本台帳人口移動報告の平成23年4月の月別結果から町丁目別データを抽出し、当該地区の居住人口として整理する 		

パターン④ 前年度もしくは過年度のデータ+過去の傾向から評価値を推計する場合

指標例 4		観光入込客数	
A：事前評価時の『従前値』の求め方			
①従前値の基準時点	「平成 16 年度観光統計調査」結果調査時（平成 16 年 3 月 31 日時点）		
②実施主体	商工観光課		
③求め方	<ul style="list-style-type: none"> 平成 17 年 10 月 1 日に公表された「平成 16 年度観光統計調査」を用いた 平成 16 年度 1 年間の対象地区の観光入込客数を把握し、従前値とした 		
B：事後評価時のデータの計測方法と『評価値』の求め方			
④計測時期	平成 22 年 5 月 1 日時点		
⑤実施主体	商工観光課		
⑥データの計測手法	<ul style="list-style-type: none"> 平成 21 年 10 月 1 日に公表された「平成 20 年度観光統計調査」を用い、平成 20 年度 1 年間の対象地区の観光入込客数を把握する 		
⑦評価値の求め方	<ul style="list-style-type: none"> 計測時点ではすべての事業が完了しないため、効果が十分に発現しているとはいえない状況が予想される また、最新データが掲載される予定の「平成 21 年度観光統計調査」は平成 22 年 10 月 1 日に公表される予定で、4～6 月に値を計測することができない よって、平成 21 年 3 月 31 日時点での観光入込客数（平成 20 年度データ）と過去の傾向（平成 17～19 年度データ）から、評価基準日【平成 23 年 3 月 31 日】の観光入込客数を推計し、評価値（見込みの値）とする 		
⑧確定／見込みの別		確 定	
	●	見 込 み	
C：フォローアップ時の『確定値』の求め方			
⑨フォローアップの必要性	●	あ り	
		な し	
⑩計測時期	交付終了後 1 年 6 ヶ月を経過した時点（平成 24 年 10 月 1 日時点）		
⑪実施主体	商工観光課		
⑫求 め 方	<ul style="list-style-type: none"> 平成 24 年 10 月 1 日に公表予定である「平成 23 年度観光統計調査」を用い、事業終了後の平成 23 年度 1 年間の対象地区の観光入込客数を把握し、確定値とする。 		

パターン⑤-1 類似事例・簡易調査などから評価値を類推する場合

指標例 5		新規施設（■■館）の入場者数	
A：事前評価時の『従前値』の計測方法			
①従前値の作成時点	都市再生整備計画作成時（平成 17 年 10 月 1 日時点）		
②実施主体	都市整備課（まちづくり交付金主管課）		
③求め方	<ul style="list-style-type: none"> ・ 交付終了年度である平成 22 年度末に整備が終了する施設であることから、事前評価時の『従前値』は 0 と設定した 		
B：事後評価時のデータの計測方法と『評価値』の求め方			
④計測時期	平成 22 年 5 月 1 日時点		
⑤実施主体	文化振興課（■■館所管課）		
⑥データの計測手法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 計測時点で整備が終了しておらず、また過去のデータもないため、市内の類似施設である▲▲館の整備事例を基に入場者数を類推することとする 		
⑦評価値の求め方	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新規施設のため過去のデータがなく、また計測時点では施設が未完成で供用されていないため、4～6 月にデータを計測することができない ・ よって、市内の類似施設である▲▲館が平成〇年度に整備された際、約 4,000m²の整備面積に対して年間入場者数が 10 万人であった事例（1 m²あたり 25 人）を基に、評価基準日【平成 23 年 3 月 31 日】の入場者数を類推し、その値を評価値（見込みの値）とする 		
⑧確定／見込みの別		確定	
	●	見込み	
C：フォローアップ時の『確定値』の求め方			
⑨フォローアップの必要性	●	あり	
		なし	
⑩計測時期	交付終了後 1 年を経過した時点（平成 24 年 3 月 31 日時点）		
⑪実施主体	文化振興課（■■館所管課）		
⑫求め方	<ul style="list-style-type: none"> ・ 平成 23 年度の入場者数を年度末最終日である平成 24 年 3 月 31 日に集計し、その値を持って確定値とする 		

パターン⑤-2 類似事例・簡易調査などから評価値を類推する場合

指標例6		駅前広場に対する住民満足度	
A：事前評価時の『従前値』の計測方法			
①従前値の作成時点	都市再生整備計画作成時（平成17年10月1日時点）		
②実施主体	都市整備課（まちづくり交付金主管課）		
③求め方	<ul style="list-style-type: none"> 対象地区の全住民を対象に郵送調査法による満足度調査を実施した 整備の対象となっている駅前広場の現状について10項目質問し、それぞれ5段階（5点満点）で評価してもらい、その平均値を従前値として設定した 		
B：事後評価時のデータの計測方法と『評価値』の求め方			
④計測時期	平成22年6月1日時点		
⑤実施主体	都市整備課（まちづくり交付金主管課）		
⑥データの計測手法	<ul style="list-style-type: none"> 計測時点で整備が終了しておらず、住民満足度を計測することが困難である また過去のデータもないため、地区住民50名を対象とした簡易的なヒアリング調査を行う 具体的には、計画に示されている事業終了後のイメージパースを示し、それに対する満足度を5段階で回答してもらい、平均値を算出することとする 		
⑦評価値の求め方	<ul style="list-style-type: none"> 計測時点では関連事業が完了しておらず、評価が困難である また、満足度調査は都市再生整備計画作成時に実施したのみで、過去のデータがない よって、上記の簡易調査結果を、そのまま評価基準日【平成23年3月31日】の評価値（見込みの値）とする 		
⑧確定／見込みの別		確定	
	●	見込み	
C：フォローアップ時の『確定値』の求め方			
⑨フォローアップの必要性	●	あり	
		なし	
⑩計測時期	交付終了後5ヶ月を経過した時点（平成23年9月1日時点）		
⑪実施主体	都市整備課（まちづくり交付金主管課）		
⑫求め方	<ul style="list-style-type: none"> 従前値と同じ計測方法を用い、平成24年6月に満足度調査を実施する その結果を集計し、公表した値を持って確定値とする 		

2) その他の数値指標（当初設定した数値目標以外の指標）による効果発現の計測

◆交付金による事業の効果について、都市再生整備計画に記載した数値目標とは別の定量的な指標を用いて効果の発現状況を検証することができる。この定量的な指標（「その他の数値指標」という）について、各評価段階（事前評価時、事後評価時、フォローアップ時）での計測方法を設定する。

※「数値目標」として掲げた指標よりも、適切に事業の実施による効果を表す「その他の数値指標」の存在を市町村が確認した場合には、市町村は積極的に本記入欄を記入するものとする。

※上記の設定にあたって、「その他の数値指標（当初設定した数値目標以外の指標）による効果発現の計測」の目的や内容を確認する場合には、「事後評価シート作成の手引き」P.14～15を参照のこと。

●指標名

前述 8 ページの記入方法と同じ

●記述理由

本欄へ記述することが望ましいと判断した理由（事業実施前には予想しなかった効果が現れたため、都市再生整備計画に記載した数値目標の代替指標を設定するため等）を記入する
また、当該指標を選定した理由として、当該指標が事業効果を適切に表現するものと見込まれる根拠（指標の性質や特徴、地域の状況等）を記入する。

●A. 事前評価時の『従前値』の求め方

前述 8 ページの記入方法と同じ

●B. 事後評価時のデータの計測方法と『評価値』の求め方

前述 8 ページの記入方法と同じ

●C. フォローアップ時の『確定値』の求め方

前述 8 ページの記入方法と同じ

【補足・留意事項】

- その他の数値指標は、下記の設定例Ⅰ～Ⅳを参考に設定する
 - Ⅰ. 数値目標の成果を別の側面から具体的に表す指標
ex. 『中心市街地活性化』の目標に対し、成果を直接的かつ具体的に表す「歩行者自転車交通量」、「空き店舗解消数」などの指標
 - Ⅱ. 目標の達成の動きを先行的に表す指標
ex. 『人口定着』の目標に対し、「宅地開発」「新規住宅着工数」など、目標の達成に向けた動きを先行的かつ具体的に表す指標
 - Ⅲ. 量と質の両面から効果を検証できる指標
ex. 『観光による地域振興』の目標に対し、「観光施設利用者数」と「利用者満足度」など、数値上の効果と数値では表せない効果を示す指標
 - Ⅳ. 複数の指標で目標の達成を説明できる指標
ex. 『防災』の目標に対し、「避難地までの距離の短縮」と「避難地面積の増加」など、複合的に捉えることで成果がより明確になる指標

〔記入例〕 2) 成果の評価方法/その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現の計測

2) その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現の計測					
数値指標:	〇〇駅の乗降者数				
記述理由	<ul style="list-style-type: none"> 地区の整備に伴う効果として〇〇駅の乗降客数の増加が見られ、交流人口が拡大したこと(目標)を表している指標としてふさわしいと考えられるため モニタリングの結果、都市再生整備計画に記載した数値目標「a. 観光入込客数」が未達成となる可能性があることが分かり、代替指標を設定しておく必要があると判断したため 				
A: 事前評価時の『従前値』の求め方					
①従前値の基準時点	「平成16年度△△鉄道□□線乗降客数調査」調査時(平成17年3月31日時点)				
②実施主体	交通対策課				
③求め方	<ul style="list-style-type: none"> 平成17年6月1日に△△鉄道が公表した「平成16年度△△鉄道□□線乗降客数調査」結果を用い、平成16年度の〇〇駅の乗降客数を把握した 				
B: 事後評価時のデータの計測方法と『評価値』の求め方					
④計測時期	平成22年6月1日時点				
⑤実施主体	交通対策課				
⑥データの計測手法	<ul style="list-style-type: none"> 平成22年6月1日に△△鉄道が公表を予定している「平成21年度△△鉄道□□線乗降客数調査」結果を用い、平成21年度の〇〇駅の乗降客数を把握する 				
⑦評価値の求め方	<ul style="list-style-type: none"> 計測時点ではすべての事業が完了しないため、効果が十分に発現していない状況が予想される 平成21年度の〇〇駅の乗降客数は平成23年6月1日に公表される予定である よって、交付終了年度の前年度である平成21年度の乗降客数と過去の傾向(H18~20年度のデータ)から、評価基準日【平成23年3月31日】の乗降客数を推計し、評価値(見込みの値)とする。 				
⑧確定/見込みの別	<table border="1"> <tr> <td></td> <td>確定</td> </tr> <tr> <td>●</td> <td>見込み</td> </tr> </table>		確定	●	見込み
	確定				
●	見込み				
C: フォローアップ時の『確定値』の求め方					
⑨フォローアップの必要性	<table border="1"> <tr> <td>●</td> <td>あり</td> </tr> <tr> <td></td> <td>なし</td> </tr> </table>	●	あり		なし
●	あり				
	なし				
⑩計測時期	交付終了後1年2ヶ月を経過した時点(平成24年6月1日時点)				
⑪実施主体	交通対策課				
⑫求め方	<ul style="list-style-type: none"> 平成24年6月1日に公表予定である「平成23年度△△鉄道□□線乗降客数調査」結果を用い、平成22年度の〇〇駅の乗降客数を把握し、確定値とする 				

※上記では、下記(都市再生整備計画の様式例)の点線枠内に掲げる指標以外の「その他の数値指標」を設定する。

※都市再生整備計画の様式(参考例)より一部を抜粋

目標						
大目標: 歴史的たたずまいを継承する次世代型まちづくり 目標1: 交流人口拡大による地域復興-「観光地づくり」 目標2: 定住人口拡大による街なか再生-「徒歩圏で生活が完結」 目標3: 歴史的資源の保全活用による地元意識の復興-「誇りが持てる都市景観の形成」						
目標設定の根拠						
まちづくりの経緯及び現況						
目標を定量化する指標						
指標	単位	定義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	基準年度	目標
a 観光入込客数	人/年	□□地区の観光入込客数	交流人口拡大度合いを計測する指標	55,000	H16	66.0
b 居住人口	人	□□地区内人口	定住人口拡大度合いを計測する指標	800	H16	1.0
c ■■■館来館者数	人/年	■■■館への来館者数	交流人口拡大度合いを計測する指標 地元意識の高まりを確認する指標	315	H16	50
d 地域コミュニティ形成	団体数	まちづくり団体、地域活動団体数	地域コミュニティ形成度を確認する指標	1	H16	3

